

新小岩公園再整備基本構想(案)に関する説明会を開催しました

新小岩公園再整備基本構想策定に向けた検討について、昨年9月の第1回検討会以降、「新小岩北地域まちづくり協議会」「新小岩南地域まちづくり協議会」「一般公募」の皆様による意見交換会を開催してまいりました。

その後、意見交換会での内容を踏まえて、第2回検討会を8月に開催し、多様なゾーニング3案にまとめました。

この度、上記3案をとりまとめた、新小岩公園再整備基本構想(案)に関する説明会を開催しました。

開催概要

日時: 令和2年10月16日(金) 19:00~20:30
 場所: 新小岩北地区センター 参加者: 7名

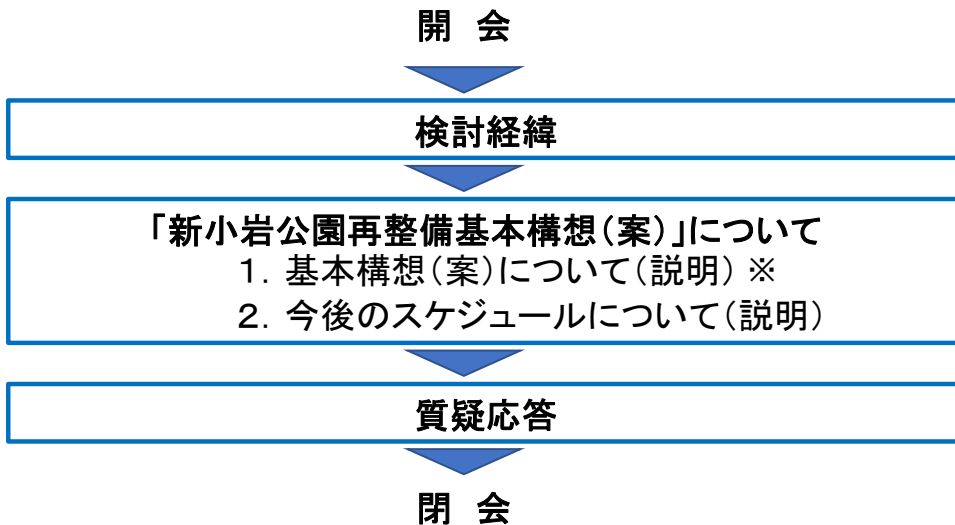


説明会の様子



会場参加者との意見交換

基本構想(案)説明会の流れ



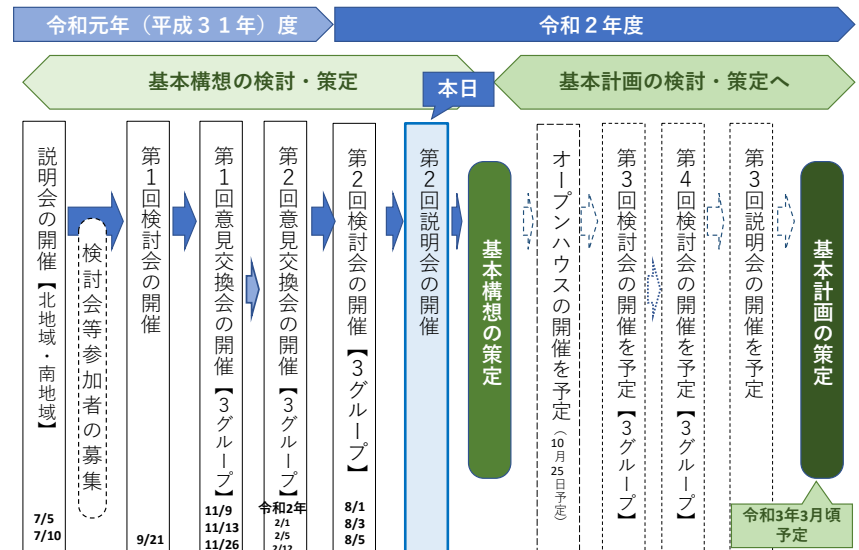
※基本構想(案)については、裏面をご覧ください。

主なご意見

- Q: 計画・整備スケジュールについて
 A: 東京都の堤防整備と一体的な整備とし、今後、基本計画⇒基本設計と段階を経て計画内容を具体化していく。
- Q: 水害時の避難拠点としての利用について
 A: 基本構想で示した高台の受援拠点の機能の一つとして、垂直避難後の二次避難拠点(陸路・水路・空路)機能も担う。
- Q: 高台と接続する建屋の配置計画等について
 A: 今後の基本計画において詳細な配置や機能等を検討していく。
- Q: スポーツエリアの地表面の仕様について
 A: 今後スポーツ機能と必要となる仕様を整理していく。
- Q: 平面交差点化における蔵前橋通りの南北交通について(地下通路かエレベータか等の検討状況)
 A: 現在の利用実態(歩行者等の通行状況)を調査し、さらに、東京都との協議も重ねて検討状況を地元と共有(報告)していく。

今後のスケジュール

※新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら説明会・検討会の開催をします。



●都市整備部都市計画課街づくり計画担当係 (連絡先): 03-5654-8382
 ●都市整備部公園課建設係 (連絡先): 03-3695-8011

新小岩公園再整備基本構想(案)

新小岩公園再整備基本構想(案)

地域住民のみなさまのご意見を踏まえ、基本構想(案)を作成しました

新小岩公園は、昭和60年に開園されて以来、レクリエーションやスポーツ活動、また、ふれあいまつりやフードフェスタ等の各種イベントにも利用されるなど、子どもからお年寄りまで多くの方々に親しまれ幅広く利用されています。一方で、首都圏下流部の切迫性や気候変動による大規模水害への備え、駅周辺まちづくり等との連携など、新小岩公園の防災性向上や魅力アップが求められています。このたび、新小岩公園再整備基本構想策定に向けて開催してきた説明会、検討会、意見交換会におけるご意見を踏まえ、「新小岩公園再整備基本構想(案)」を作成しました。

1. 「未来志向の公園づくり」を目指します

理念

より多くの地域住民・世代に親しまれ、多様な災害に対応した応急活動拠点(水害時の受援拠点)としての防災機能を有し、公園内外の回遊性も有するなど、地域のまちづくりとも連携した「未来志向の公園づくり」を目指します。

基本方針

防災機能の強化

地震・風水害・その他大規模災害等の多様な災害に対応した応急活動拠点(水害時の受援拠点機能)を有する公園とします。

憩い・賑わい空間の創出

多様なスポーツ、健康促進、地域イベント活動、憩いの場、緑とふれあう場となるなど、より多くの地域住民・世代に親しまれ、賑わいを創出する公園とします。

まちと共に発展

公園周辺地域における民間・公共施設の整備やまちづくりの取組と連携し、多様な社会ニーズに対応するなど、長期的発展を目指した公園とします。

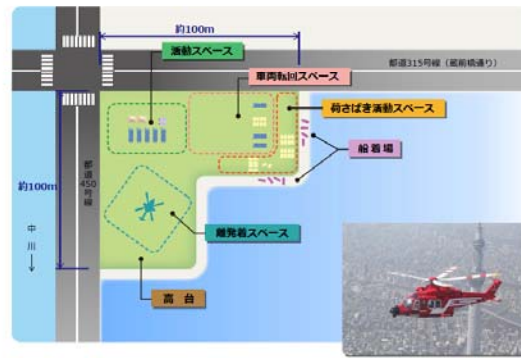
構想イメージ図と求められる機能



4. 高台ゾーンに想定される様々な水害時の受援拠点機能

縦横斜型堤防と一体となった浸水しない高台ゾーンの整備により、以下に示すような水害時における受援拠点機能を確保します。それぞれの機能に確保すべき必要なスペース・配置などの検討を行い、水害時に必要となる高台空間の位置・範囲として設定しました。

- 活動スペース** ▶ 各機関からの応援を受け入れる活動スペースとしての利用
- 車両転回スペース** ▶ 緊急時の輸送・搬送車両の駐車や転回のスペースとしての利用
- 荷さばき活動スペース** ▶ 受け入れた物資や資材材の荷さばき一時保管の活用スペースとしての利用
- 給着場** ▶ 洪水緊急避難建物や自宅の2階以上の避難者を対象とした二次避難(搬送)や物資供給(輸送)をボート等で行うための給着場としての利用
- 離発着スペース** ▶ 救助・救出・搬送活動を行う各機関のヘリコプターの離発着スペースとしての利用



▲物資搬送設備
出典：関東地方整備局
平成30年11月9日、荒川口ロックゲート前



▲白河川の活動状況(人命救助・搬送活動)
出典：防衛省・自衛隊
令和元年台風19号に係る災害写真

◀東京消防庁「ちどり」
出典：東京消防庁

2. 大規模水害時に必要となる防災拠点機能

大規模水害発生時には、区内市街地が広域的に浸水します

葛飾区内はゼロメートル市街地が広がり、大規模水害発生時には、流域の市街地が広域的に浸水します。



水害時においても浸水せず、様々な活動が行える防災拠点機能が必要となります

広域避難をする時間的余裕がなく、洪水緊急避難建物や自宅の2階以上に単直避難した方の救出救助、避難経路時の必要物資の輸送(物資供給)、応援機関の受入(受援)等を行う活動拠点が必要となります。

3. 河川整備と一体的な高台ゾーンの整備による水害時の防災拠点機能の確保

新小岩公園に浸水しない高台ゾーンを整備し水害時の防災拠点機能を確保します

新小岩公園の再整備に向けては、平井大橋の橋詰部に東京都が整備を予定している縦横斜型堤防と一体となった浸水しない高台を整備することにより、「首都圏高速道路や対岸との道路ネットワーク」や「空路(ヘリコプター)・水路(ボート)」等を活用した水害時の防災拠点機能を確保します。



▲令和元年東日本台風において道路機能が確保された堤防設備(水戸島1IC付近)写真：国土交通省



東京都が整備予定の縦横斜型堤防と一体となった新小岩公園の高台ゾーン整備

5. 意見交換会・検討会で検討された多様なゾーニング案

水害時に必要となる高台空間の確保を前提とし、意見交換会等で検討を重ねてきました。引き続き、再整備に合わせて導入する機能の検討を進めていきます。

